

会員事業場のご紹介

コロナ禍における工場現場でのゼロ災運動

株式会社東研サーモテック 三重工場

1. 会社紹介

当社は、1939年に設立し、国内（兵庫県・大阪府・和歌山県・三重県）9拠点と海外（タイ・マレーシア・中国・メキシコ）4拠点で総勢約3,000人が在籍し、自動車部品を中心に、金属熱処理やドライコーティングにより最適な強度や耐摩耗性をもたせ、素材に新たな付加価値を与えています。三重郡菰野町にある三重工場では、従業員240名が従事しており、今年で操業35年目を迎えます。



2. 安全活動

当社は、2014年からゼロ災運動に取り組み、本年で10年目に入ります。その間、外部講師を迎え、ボードKYT活動などを通じゼロ災運動に取り組んでまいりました。コロナ禍となった2020年以降においても工夫をして積極的にゼロ災運動に取り組んでいます。

【1】KYT方法の変更

従来のA4サイズのボードからA1サイズのボードに切替え、距離を確保してKYTを行えるように変更しました。また、各部署毎で朝礼後に複数チームが、距離を確保できるエリア内で一斉に実施することで、刺激しあえる状況に整え、安全に対する意識を高めて始業する環境にしています。

【2】労災ヒアリングパトロールの実施

対策内容の維持継続の確認を含めた現場パトロールを行う際に、管理者自らが従業員に対して、過去に発生した労働災害事例について質問を繰り返し行い、意識向上と注意を促すようにしています。

【3】問いかけヒヤリハット活動

書面での提出を待つ姿勢のヒヤリハット活動を管理者が反省し、現場に出向き従業員から直接ヒヤリハットを聞き出す活動を始めました。このことから、飛躍的に件数が増え、管理者が自ら聞き出していることから、対策にも熱意をもって取り組む姿勢が生まれています。

当社は、2016年から各拠点の持ち回りで「全国産業安全衛生大会」において毎年発表しており、2022年10月の大会では、当三重工場が上記内容にて発表を行っています。



朝礼後のKYT一斉実施の様子（8チーム合同）



全国産業安全衛生大会のKYT実演の様子

3. 最後に

上述の活動をコロナ禍においても粘り強く続けた結果、管理者に「やり抜く」という意識が芽生え、それが従業員にも伝播し、職場全員の変化に繋がったことを感じています。

今後は中堅クラスのKYTレベルをさらに高めて活動の底上げを図り、ゼロ災活動の継続に取り組んでまいります。